

01・朝の公園で青姦一步手前エロエロイチャイチャ

〈シチュエーション〉

秋の朝、主人公と鳴瀬が森林公園で過ごすシチュエーション。

場所は公園内の坂道（ジヨギングコース）く小さな滝のある池くその付近にある東屋と移動する。

鳴瀬は朝の公園にほとんど人がいないのをいい事に、堂々とキスしたり、身体を密着させたり、胸を触らせたり、耳舐めをしたりする。

つまりは、『憧れの先輩と外で堂々とイチャイチャし、隠れてちよつとえっちな事までされる』という、主人公にとって夢のようなシチュエーション。

十月上旬の朝。

主人公、森林公園内の坂道を走っている。

SE1 公園の環境音

【最初から最後まで流す】

【繰り返し流す】

〔トラック終了まで流し続ける〕

〔0―5秒ほど流してSE2〕

〔▲6で加工する〕

SE2 主人公が公園をジョギングする音

〔最初から最後まで流す〕

〔繰り返し流す〕

〔フェードインする形で聞こえる〕

〔0―10秒ほど流して『鳴瀬』のセリフ〕

〔▲1で一段階速度が速くなる〕

〔▲2でストップする〕

〈主人公〉

「はっ、はっ、はっ。 はあっ……。 はあ、はあ、はあ、はあっ……。！」

● 正面 50〜30センチ

△ボイス加工あり▽

● フェードインするように聞こえる

■朝の森林公園。

鳴瀬は今、もうすぐジョギングコースを終える主人公を、ゴール地点で待っている。左手には一本ペットボトルを持っており、後で主人公に渡すつもりでいる。姿が見えたところで、鳴瀬の方からも少し駆け寄っていく

「明るく嬉しそうに。

優しく応援する感じで」

お……い！ あと少しだよ！

頑張れ！❤️」

〈主人公〉

「……っ！」

▲1 ここですE2が一段階早くなる

▲2 一段階早くなったら5秒後にストップする

主人公、飛び込むように一気に近づく。

そしてそのまま、鳴瀬の肩に両手をかけるような形で飛びついた。

● 正面 30×15センチ

■ だんだんと近づいて。

ゴールした主人公をねぎらい、主人公が先週よりも多く走れた事について褒める
「明るく、とても嬉しそうに。

あまあまに」

はいっ、ゴールく！

やったく♥ お疲れ様♥

【少し間をあけてから、あまあまに】

凄いね♥ 先週より一周多く走れたじゃん。

偉いぞく♥」

〈主人公〉

「はあ、はあ、はあ……！ ああ……ありがとうございます……！
なんとか戻ってこられました……！」

そう、今日の主人公は、いつもよりも気合が入っていた。
いつもならもうとうにゴールしている所を、おまけにもう一周走って来たのである。

● 正面 15センチ

「明るく、とても嬉しそうに。

あまあまに」

よしよし♥ よく頑張った♥

えらいぞ〜♥♥」

鳴瀬、近づいてキスする。

● 正面 15〜0センチ

■顔を近づけて、唇にキスする。ここは公園だが、主人公の事が可愛くて、我慢できない

「※3回※ 唇にキスする。

あまあまに。

ちゅ。

ちゅっ♥ ちゅっ♥」

鳴瀬、少し離れる。

● 正面 0〜15センチ 少し揺れる

■ 声が少し揺れる。主人公の頭を撫でながら話している。主人公を目いっぱい褒める

「きゃっきゃと嬉しそうに」

いい子いい子 ♡ 自慢の彼女だ ♡

えらいぞ ♡ ♡

鳴瀬、近づく。

● 正面 15〜30センチ 少し上

■ 顔を近づけて、額にキスする

「※1回※ 額にキスする。」

あまあまに」

ちゅ ♡

〈主人公〉

「…… ♡ ♡」

● 正面 30センチ

■肩にポンと手を置いて、移動を提案する

「明るく優しく。」

主人公をいたわる感じで

よし」

SE3 鳴瀬が主人公の肩を『ぽん、ぽん』と叩く音

【最初から最後まで流す】

【2回繰り返し流す】

【次の『鳴瀬』のセリフと同時に流す】

●正面 30センチ

「じゃ、喉乾いたでしょ。いつものとこ行こっか♥」

〈主人公〉

「はい……！ あ♥」

鳴瀬、近づく。

● 正面 30〜0センチ

■ 顔を近づけて、唇にキスする

「※1回※ 唇にキスする。

不意打ちのキス」

ちゅ♡

〈主人公〉

「！」

● 正面 0センチ

「「にやにやと嬉しそうに」

ふふ。油断してたね♡」

鳴瀬、主人公の左耳側へ移動する。

● 左 0センチ

■ 左耳側に移動してさらに不意打ちでキスをする。今度は耳にキスする。

「※1回※ 左耳にキスする。

あまあまに」

ちゅ♡」

〈主人公〉

「あ……♡」

● 左 0センチ

■ 左耳側で、一緒に歩き始める。以後、移動が済むまで、歩きながら話している。

主人公と腕を組み、主人公の身体にわざとびったり胸を押し付けている

「【あまあまに】

行こ♪」

鳴瀬、少し離れる。

SE4 鳴瀬が歩く音

【最初から最後まで流す】

【繰り返して流す】

【次の『鳴瀬』のセリフと重ねて流す】

〔▲3 で一度ストップする〕

〔▲4 で再開する〕

〔▲5 でストップする〕

●左 15センチ

■左耳側で、鼻歌を歌っている

〔「上機嫌で。」

※適当なメロディをつけて、鼻歌を歌ってください※〕

ふん、ふん♪

ふん、ふん。ふん♪

〈主人公〉

「……♡」

●左 15センチ

■左耳側を歩きながら、先ほどの主人公の『予定よりも一周ジョギング量を増やした』という行動を振り返り、褒める

〔「上機嫌で」

今日、ほんと頑張ったね♡
さつき『もう一周してくる』って言った時は『大丈夫かなあ』って思ったけど。
全然大丈夫だったね♡」

〈主人公〉

「えへ……♡

実は自分でも『前より長く体力もつようになってきたな』って思ってます……♡」

鳴瀬、正面側へ顔を移動する。

●正面 15センチ

■自分の顔を、左耳側から主人公の顔の正面に向けて話す。

顔をひよっこりのぞかせて、主人公の顔を見ながら同意している

「【さらに少しテンションが上がり、上機嫌で同意する】

そう♡

体力ついた！ ついたよね♡

何（なん）か足とかも、前より引き締まってきたね。

■足の骨を、指差しながら話しているイメージで

【『主人公の足は、一部の骨がボコッと浮く程筋肉質な足になっているね』という意味】
「ここんとこの骨とか、ボコって出てきてるもん」

〈主人公〉

「そう……！ そうなんです……♡　なんか、変化わかると、嬉しいですね……♡
っい、自分でも触っちゃいます」

●正面　15センチ

【「上機嫌で同意する」】

わかる♡

成果身体に出てくるとき。嬉しくて触っちゃうよね♡」

〈主人公〉

「はい……！」

鳴瀬、顔の位置を左耳側に戻して、無声音ささやきをする。

●正面　15センチ　　左　0センチ　無声音ささやき

■ 正面に向けていた顔を、左耳側に戻してささやく

「【※マークまでささやく。】

ひそひそと、嬉しそうに。ちよつとからかうような感じで

毎日かっこよくなってるもんね♡※

〈主人公〉

「あ……っ♡」

● 左 0センチ

「【上機嫌で。ちよつとからかうような感じで。】

『作ってけば』 Ⅱ 『作っていけば』」

この調子で身体作ってけば。来年にはムキムキになったりして♡

〈主人公〉

「えへへ……♡ な、なりますかね♡」

■ ここからしばらく、少し離れたり、また近づいたりを繰り返す

● 左 15センチ

「上機嫌で。にやにやと嬉しそうに」
なるよ〜♡

で♡ もっとあたしの自慢の女の子になっちゃうの」

鳴瀬、少し近づく。

▲3 ここでSE4が一度ストップする

●左 0センチ

■顔を近づけて、左耳にキスする

「※1回※ 左耳にキスする。

あまあまに」

ちゅ♡「

〈主人公〉

「！」

●左 0センチ 無声音ささやき

「※マークまでささやく。

ひそひそと、嬉しそくに。ちよつとからかうような感じで」

ふふ♡

……ねえ。ちゅーするとさあ。未（いま）だに『ぴくっ♡』ってするよね♡
……可愛いね♡※

〈主人公〉

「……！ もう、せんぱいっ……♡」

鳴瀬、少し離れる。

▲4 ここでSE4が再開する

●左 15センチ

「上機嫌で。ちよつとからかうような感じで」

あは♡ かくわい♡

ごめんね♡ からかって♡」

●左 15センチ

■東屋が見えてくる。

周囲には誰もおらず『これで思う存分イヤイヤできる』と、内心ホツとする
「[とても上機嫌で]

また、安心した感じで]

あゝ♥ よかったあ。今日も誰もいないね♥「

鳴瀬、少し近づく。

●左 0センチ

「[にやにやと、含みのある感じで]

二人つきりだ」

〈主人公〉

「……………」

▲5 一つ前の『鳴瀬』のセリフの後、五秒ほど流してストップする

▲6 ここでS E 1が少し『遠くなった』『こもった』音になる（野外だが、屋根のあるあずまやに入った事がわかる）

S E 5 鳴瀬がベンチに腰掛ける音

【最初から最後まで流す】

S E 6 主人公がベンチに腰掛ける音

【最初から最後まで流す】

S E 7 鳴瀬がペットボトルのキャップを開ける音

【最初から最後まで流す】

●左 30センチ

■主人公と並んで、東屋のベンチに腰掛ける。

左耳側で話し、以後、トラック終了までここにいる

また、ここで、左手にずっと持っていたペットボトルのふたを開けて、主人公に渡す
「【上機嫌で、とても嬉しそうに】

はい。今日もジョギングお疲れ様でした♥」

〈主人公〉

「あっ……いただきます！」

ほんとありがとうございます。実は、すごい喉乾いてて……」

鳴瀬、正面向きになって話しかける。

● 正面 30センチ

■ 自分の顔を、主人公の顔の正面に向けて話す。

左耳側にいたが、顔をひよっこりのぞかせて、主人公が飲み物を飲むさまを見ている
「上機嫌で、とても嬉しそうに」

あはっ。めっちゃ飲んでる♡ かわいく♡
一杯汗かいたもんね♡

■ 背中や肩を優しく撫でながら話すイメージで
よしよし、よしよし、よしよし♡

● 正面 30センチ

「ふと気づいたように。」

『アプリジョギングの記録をつけてくれるスマホアプリ』
あ、そうだ。アプリ見せて？
そろそろ記録、反映されてるんじゃない？」

〈主人公〉

「……あ！　そうですね……！　どうぞ！」

SE8　主人公がポケットからスマホを取り出す音
【最初から最後まで流す】

●正面　30センチ

■主人公からスマホを受け取って

「【嬉しそうに】

ありがとう♡」

鳴瀬、一度左耳側に戻る。

●左　30センチ

■左耳側に戻り、主人公のスマホに目を落とし、アプリを見ながら話す

「【上機嫌で、とても嬉しそうに】

お！ カロリー消費量、凄いじゃくん♥

今日、こんな走ったんだあ。

大分（だいぶ）慣れて、長く走れるようになってきたよね♥」

〈主人公〉

「はい……お陰様で！ 前よりも、だいぶ余裕あると思います♥」

鳴瀬、正面側へ顔を移動する。

●正面 30センチ

■自分の顔を、主人公の顔の正面に向けて『スポーツの先輩』として提案する。

左耳側にいたが、ここからしばらく、顔をひよっこりのぞかせて話している。

『風見体育センター』とは、市内の公営運動施設で、スポーツの大会やコンサートに用いられる場所。一部の施設は市民向けに無料開放されている

「【明るく、でも落ち着いた様子で提案する】

そしたらさ。今度風見（かざみ）体育センター行ってみよっか」

〈主人公〉

「え？」

● 正面 30センチ

■ 『風見体育センター』について説明を始める

「あそこさ、たまにだけど、ランニングコース無料（ただ）で解放してるんだよ」

〈主人公〉

「そうなんですか？ 知らなかったです……！」

● 正面 30センチ

「【上機嫌で、とても嬉しそうに】

そうなの♡

これ、知ってる人あんまないんだよね。

大会とかライブとかない時だけだけど、使わせてもらえるんだよ♡」

〈主人公〉

「えーっ、そうだったんですね……！　でも……どこを解放してるんですか？」

● 正面　30センチ

「【少々自信なきげに、疑問形が混じる。

『ぐるーっ&できるⅡぐるっ&一周走れるコースになっている』

えっ&ね。二階席の廊下側？　の&を走らせてもらえるんだよ。

一周、ぐるーっ&できる感じなの。

床もね。

【どう伝えようかと、少し悩んで。『ダメⅡダメーじ』】

わかるかな……柔らかいっていうか、足がダメ受けにくい素材になってさ。

だから、走りやすくて良（い）いの♡

【あまあまに誘う】

今度行こ？♡」

〈主人公〉

「はい！　行ってみたいです……♡　ぜひよろしくお願いします！」

● 正面　30センチ

「【上機嫌で】

ふふ♡

【嬉しそうにはしゃぐ】

やったあ。決まり♡

【少し間をあけて、嬉しそうに、しみじみと】

……何（なん）かさ、カップルと一緒に色んなところ行けるのっていいよね♡
君、いつも付き合ってくれるもんね♡」

〈主人公〉

「もちろんですよ……♡

なる先輩の行きたい所は。わたしも行きたい所ですから♡」

●正面 30センチ

「【上機嫌で】

え。かわいく♡ ほんと？♡」

〈主人公〉

「もちろんです！ ぜひ、お供させてください！」

● 正面 30センチ

「優しく」

……ありがとう♥

「嬉しそうに、しみじみと」

君ってさ。ほんと可愛いよね」

〈主人公〉

「あ……♥」

鳴瀬、近づく。

● 正面 30〜0センチ

■ 顔を近づけて、唇にキスする

「※セリフ終わりまで※ キスする。

浅いキスから、だんだん熱っぽいディープキスになる」

ちゅ♥

ちゅっ♥

んっ……んちゅっ♥ はんむ……ちゅぶっ♥
れえんる……ちゅぼっ♥」

● 正面 0センチ 無声音ささやき

■ 唇を離して、正面でささやく

「【※マークまでささやく。】

ひそひそと、ちよつとセクシーに」

……ね。あたしも飲んでいい?」※

〈主人公〉

「あっ……♥ ど、どうぞっ……!」

鳴瀬、ペットボトルを受け取るために少し離れる。

● 正面 0〜30センチ

■ 顔を少し離して、ペットボトルを受け取る

「【甘く、そつと】

ありがとう♪」

鳴瀬、左耳側に戻る。

●左 30センチ

■左耳側に戻り、飲み物を飲む

「飲み物を飲む。」

※『飲むフリ』でOKです※

んっ、んっ、んっ。

んっ……。んー……。ふはっ

美味しいね♡

〈主人公〉

「はい……。♡」

●左 30センチ

「満足げに、うっとり」と

ふっ♡

あく。気持ちいい風……。。

天気もいいし、今日、めっちゃ秋晴れって感じだよねえ。
何（なん）かもう、ずっとここ居れるね〜………♡

〈主人公〉

「はい………♡ わかります………♡
もうちよつと、居ましょう………？ ♡」

● 左 30センチ

「嬉しそうに同意する」

ね♡

【上機嫌で。

※適当なメロディをつけて、鼻歌を歌ってください※】

ふ〜♪

ふん、ふん。ふん♪」

〈主人公〉

「あ、あの………♡」

SE9 鳴瀬がペットボトルをベンチに置く音

【最初から最後まで流す】

SE10 鳴瀬が主人公に密着する音

【最初から最後まで流す】

● 左 0センチ

■ ペットボトルをベンチに置く。

それから、主人公の左耳側に密着する、主人公の背中側から腕を回し、左肩を抱く。主人公の身体に、再び鳴瀬の胸が当たっている状態となる

【※密着してから、10秒ほど間があったイメージで※ドキツとするほど優しく】

ん〜? ♡

〈主人公〉

「えっと……♡」

● 左 0センチ

「しれっと、当たり前のように言う。

でもニヤニヤを隠しきれず、何だか嬉しそうに」

うん♡ 当たってるね♡

おっばい」

〈主人公〉

「あつ。あ。それもなんですけど……！ あのわたし、今汗かいてて、くさいので。そんなくつついちゃダメです……♡」

●左 0センチ

「ちよっと拍子抜けして」

あ、そっち？♡

【あまあまにからかう。『汗くちやくないか』汗臭くないか】

汗くちやくないか心配してたの？♡

かわいく♡」

〈主人公〉

「だ、だってえ……気になりますよお……！」

●左 0センチ

「きゃつきゃと嬉しそくに」

だくいじよふ♡

君はいつも♡良(い)い匂いだから」

〈主人公〉

「あ……！」

●左 0センチ 上や下を行ったり来たりする

■左耳側に鼻を近づけて、主人公のにおいをかぐ。不規則に動きながら

「※鼻で演技する※」

かわいく、嬉しそにかぐ」

ふんふんふんふん。

ふんふんふんふん。

くんくん。くんくん♡

【嬉しそくに】

うん♡

【※鼻で演技する※】

かわいく、嬉しそうにかぐ。

その後、大きく息を吸ったり吐いたりする】

くんくんくん、くんくんくん。

くんくんくん ♡

すーっ… ♡ はー… ♡

すーっ… ♡ ♡

【嬉しそうに】

全く問題なし ♡

〈主人公〉

「あ ♡」

● 左 0センチ

「甘々に、嬉しそうに。」

『くちやくても||くさくても』

てか、くちやくても好きだし ♡

【ドキっとするほど優しく】

気にしてんの可愛いね……♡」

鳴瀬、そのまま左耳にキスと耳舐めをする。

● 左 0センチ

■ 左耳にキスと耳舐め

「【※5回※】 甘々に、音を立ててキスする」

ちゅ♡ ちゅっ♡ ちゅうっ♡

はんむ……ちゅ♡

【※セリフ終わりまで※】 じゃれつくように軽く耳舐めをする。

耳の中に入るく舐め始めるイメージ】

くぼお……。ぴちや♡

れるれるれる。れるれるれる♡」

〈主人公〉

「あぁっ……♡」

● 左 0センチ

「ドキッとするとするほど優しく。

ちよっただけ興奮してきた感じで

ん〜?♡」

●左 0センチ 無声音ささやき

■左耳にささやきながら、主人公の手を自分の胸に持っていきながら話す

「※マークまでささやく。

優しく嬉しそうに、余裕がある感じで。興奮は一度抑える。『気持ちいい♡気持ちいい』

可愛い声出ちゃったね♡

気持ちいい? おっぱい当たるのも、お耳ペロペロされるのも好きだもんね♡

……いいよ?♡

頑張ったご褒美だもん。好きなだけ触る?♡」※

〈主人公〉

「だ、ダメです……♡ こんな所で……♡」

●左 0センチ

■左耳に話しかけながら、自分の胸を触らせる

「【甘く、ちょっと媚びた感じで】

えく？❤

毎週来てるけど、この時間、誰か通った事ないじゃん❤

触っていいよ？❤」

〈主人公〉

「そんな……❤」

●左 0センチ

「【しれっと、当たり前前のように、さらっと言う。】

『スポブラだから硬いかも』
『スポーツブラをつけているので、生地が硬いせいで、触っても柔らかさがわかりにくいかも』

……あくでも。今スポブラだから硬いかも。ごめんね❤」

〈主人公〉

「あ❤」

●左 0センチ

「あまあまに。」

主人公に『実際にはしていないえっちな事』を想像させようとしている」
よし♥ じゃあ、想像して？
こうやって♥「

●左 0センチ 無声音ささやき

■さらにねつとりと、自分の胸を触らせて話す

「※マークまでささやく。」

優しく嬉しそうに、余裕がある感じで。『真ん中||ブラジャーの中心部』

あたしのお乳に手え乗っけて。Tシャツ越しに触りながら……想像して?♥

……この服、たくし上げて。スポブラ出させて……♥

真ん中についてるジッパーをね?

『じっ』って下ろすの。

それから。汗だくになってるおっぱい出して、一杯ちゅうちゅうすんの……♥「※

〈主人公〉

「……っう……♥」

●左 0センチ 無声音ささやき

「【※マークまでささやく。

優しく嬉しそうに、余裕がある感じで

……想像した？

【※1回※ 左耳にキスする】

ちゅ♡

〈主人公〉

「……っ♡」

●左 0センチ 無声音ささやき

■『主人公が、今自分が言った事を想像した』前提で。

かつ『主人公に、自分の乳首を吸わせている』かのように話す

「【※マークまでささやく。

甘々に優しく。ちよつとママっぽく。『ちゅっちゅ♡乳首を吸う』『ちよう♡しよう』

……うん♡ いい子だ♡

ちゅっちゅしようね♡……♡

喉乾いちやっただもんね。お乳で水分補給ちようね♡……♡」※

〈主人公〉

「せんば……♡ ダメですからあ……♡」

●左 0センチ

「〔甘く、ちよっと媚びた感じでからかう〕
えく？ 想像もダメなの？」

〈主人公〉

「ダメですう……♡」

●左 0センチ

「〔優しく、しれっと、でもちよっと興奮気味に。〕

『頭の中〓自分の想像の中』

『こねこねとか、きゅんきゅん〓乳首をこねたり、きゅんとつまんだり』
あたしはしてるよ？

頭の中でね？ 君におっぱい好きにされて。
ちゅっちゅしてって言ったのに。

こねこねとか、きゅんきゅんとかまでされて悪戯されて♡

【ちよつと照れた感じで】

へへ。出しちやいけない声、出しちやってる……♡

●左 0センチ 無声音ささやき

【※マークまでささやく。】

優しく嬉しそうに、余裕がある感じで
さっきの君みたいだね♡ ※

〈主人公〉

「あ♡」

●左 0センチ

【優しく、ちよつと興奮気味に】

そう♡ そういう声……♡

ねえ。思い浮かべてみてよ♡

鳴瀬、そのまま左耳に耳舐めをする。

●左 0センチ

■左耳に、たっぷりと耳舐め

「【※セリフ終わりまで※ ゆっくりりめに、じっくり、ねっとり舐める】
れろろ……っ♥ くぼぼぼぼっ……くぶっ♥
れーろ、れーろ、れーろ、れわろ。
ぴちや、ぴちや、ぴちや、ぴちや。ぴちや、ぴちや、ぴちや、ぴちや、
ぴちや、ぴちや、
ぴちゅちゅっ♥」

〈主人公〉

「あぁっ……っ♥」

●左 0センチ

■『自分が今想像している事』を話しながら、耳舐めと耳キスに移行する

「【優しく、ちょっと興奮気味に】

公園なのに、あたしのお乳で遊んで、お手手とお口気持ち良くなって。
もつとエロい事しちゃう所♥

【※5回※ 耳にキスする。

わざと音を立てて、興奮させるようなキス】

ちゅ♡

ちゅ♡

ちゅちゅちゅっ♡

【※しばらく※ 耳舐めする。

最初はねつとりめに、だんだん興奮してきて少しずつ激しくなる感じで】

はんむ……れるれるれる……ちゅぽっ♡

ちゅふふふふ……ぺろっ♡

ぺろ、ぺろ、ぺろ。

えれ、えれ、えれ♡

【甘く、ちよつと媚びた感じで】

ちゃんとイメージしたく？♡

【※1回※ 耳にキスする。

わざと音を立てて、興奮させるようなキス】

ちゅ♡

SE11 主人公が鳴瀬の胸を服越しに触る音

【最初から最後まで流す】

【繰り返して流す】

【前の『鳴瀬』のセリフの辺りからスタートする】

【▲7 でストップする】

●左 0センチ

「※しばらく※ 耳舐めする。

ねっとりと、しっかり舐める】

ちゆるるるる……ぬぽっ♥

ぬーぽっ、ぬーぽっ、ぬーぽっ、ぬーぽっ♥

れれれれれ……れるうっ♥

くぽ、くぽ、くぽ。くぽ、くぽ、くぽっ♥

ちゅーぽっ、ちゅーぽっ、ちゅーぽっ。

……ちゅふう♥

【うっとりと興奮気味に】

はあ……可愛い……♥

大好きだよ♥

あたし。君が気持ちよくなってくれてるの見るの、だ〜い好き……♥

〈主人公〉

「……………」

●左 0センチ

「優しく、嬉しそうに。

『めっちゃやさすさすⅡ夢中になって、さすさす触る』

……ふふ♥ スポブラおっぱい気持ちいい？

なんだかんだ言って♥

めっちゃやさすさすしてくるじゃん♥」

●左 0センチ 無声音ささやき

■自分の胸を触っている主人公の手に自分の手を重ねて、嬉しそうに話している

「【※マークまでささやく。

くすくす笑いながら優しく。嬉しくてたまらないので。『楽しいⅡ楽しい』

気持ちいいね♥

おっぱい揉み揉み楽（たの）ちいね♥

なるのお乳は、毎日揉みたいんだもんね♥」※

〈主人公〉

「あ……♡」

● 左 0センチ

■ 話しながら、耳舐めに移行する

「【※マークまでささやく。】

くすくす笑いながら優しく。嬉しくてたまらないので】

お外で触ると、一杯興奮ちゆるのく？♡

えっちな赤ちゃんだねく……♡ ※

【※しばらく※ わざと音を立てるような耳舐め】

れるっ♡

れる、れる、れる。れる、れる、れる、れるっ♡

【ふと気づいたように。『あでも||あ、でも』】

あでも、あんまり強く揉んだらやだよ……？♡

【にやにやと嬉しそうに、甘くからかう。『知らない人||偶然すれ違った見知らぬ人』】

シワになって♡ 帰る時、知らない人に。

『あくこの子、さっきまで隣の子におっぱい揉まれまくってたんだあ』って、バレちゃ

うじゃん……♡

■小さく喘ぎ始める。胸を触られて、とても気持ちがいいので。

ここからどんどん、ますます気持ちよくなっていく

【※セリフ終わりまで※ ごく小さく、漏れるように、呼吸に交じりに喘ぐ。段々気持ちよくなっていく感じで】

ん

……あ

はあ、はあ、はあ。

ん

はあ、はあ、はあ。

ふー。ふー……っ ♡ ふー…… ♡

あ ♡

ふーはー、ふーはー、ふーはー、ふーはー…… ♡

はあ、はあ、はあ、

はあ。はあ、はあ……っ ♡

ここで、主人公が鳴瀬の方に顔を向ける。

これによって鳴瀬は、正面向きになって話しかける。

● 正面 30センチ

■ 自分の顔を、主人公の顔の正面に向けて話す。

左耳側にいたが、主人公の方から顔を向けてきたので

「優しく、少し切なげに。『どうしたの？』と言う感じで
ん…………？」

〈主人公〉

「せんぱ………… ♡ わたし………… ♡」

鳴瀬、近づく。主人公の方からキスをしてきたので。

● 正面 0センチ

■ 主人公の方からキスされて、少し驚く

「【※3回※】唇にキスされる。

受け身の、切なげな声が漏れるキス」

ん ♡ ん ♡ んう ♡

【興奮気味に。

我慢できずにキスしてきた主人公が、可愛くて仕方がないという感じで】

かわいく……♡

【優しく、あまあまに。『ちよ〓しよう』】

ね。もっとキスちよ？♡

【※4回※ 唇にキスする。

これまでよりもえっちなキス】

んっふ……ちゅ♡

ちゅっ……ちゅ♡

【舌を出して話すので、聞き取りにくくなる。言っている内容は『ペロ出して〓舌出して』】

べほらひてえ……？

【舌を出して話すので、聞き取りにくくなる。

言っている内容は『ペロでペロ擦られんの、好きでしよう？〓舌で舌を擦られるの、好

きでしよう？』】

べほでべほこひゆられんの、ひゆきでひよ……？♡

【※しばらく※ デイープキスする。

お互いに舌を伸ばして、舌と舌を擦り合わせるキス〓鳴瀬から主人公の口に舌を入れる

デイープキス〓唇に軽く何度もキス〓わざと音を立てて唇を離す】

ぬっふ♡

れんろ……れーろれーろれーろ……ぶちゅ♡

えれえれえれ……ちゅっ♡

あんふ……ふちゅ♡♡ ちゆるるるっ……ちゅ♡

ちゅ♡♡ ちゅ♡♡ ちゅ♡♡ ちゅ♡♡

ちゅばあっ……♡

【※しばらく※ うっとりと呼吸する。

キスをやめても、余韻が残っている感じで】

はーふう、はーふう、はーふう、はーふう……♡

んっふ……♡

はー、はー、はー、はーっ……♡

▲7 ここでSE11がストップする

●正面 0センチ

「【照れ笑いして】

へへ……♪ ごめんね……♡

朝からエロくて……♡

【※1回※ 唇にキスする。

軽く触れるだけのキス】

ちゆ ♡

君が可愛いから、我慢できなくなっちゃってさ ♡

〈主人公〉

「確かに……ちよっとびっくりしましたけど……」

● 正面 0センチ

「【甘々に相槌を打つ】

うん ♡

【※1回※ 唇にキスする。

軽く触れるだけのキス】

ちゆ ♡

許してくれる……?」

〈主人公〉

「わたしも、触っちゃいましたし……キスもしちゃったから…… ♡

● 正面 0センチ

「照れ笑いして。」

『やさち〜優しい』

へへ、そっか♡ 優ち〜ね♡

【※3回※ 唇にキスする。

軽く触れるだけのキス】

ちゅ♡ ちゅ♡ ちゅっ♡

【甘々に優しく。甘い雰囲気之余韻を残すような感じで】

大好きだよ……♡

もうちよつとだけ……♡ ここ、居よっか……♡

ここでフェードアウトして終了。